

33 東京都市大学

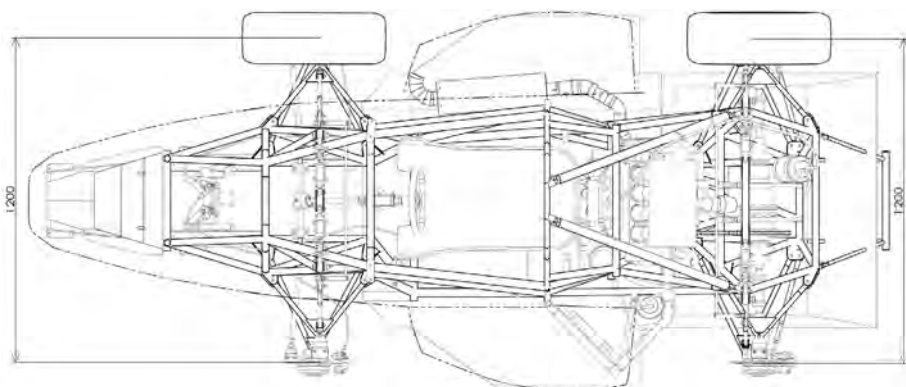
Tokyo City University

マイテック レーシング

Mi-Tech Racing

<http://mitech-racing.jpn.org/>

トラブルを抱えつつも完走 次年度に繋がる1年間となりました



今回の総合結果・部門賞

●総合21位

Profile チーム紹介・今までの活動

私たちMi-Tech Racingは第1回大会から参戦し続け、今年で13回目を迎えました。今年度はチーム初となるエアロデバイスの開発に着手し、次年度はフルエアロでの参戦を予定しています。13回大会は総合21位と悔しい結果となりましたが、次年度へのチーム基盤を作ることができました。

Team-member チームメンバー

青山 浩平 (CP)

三原 雄司 (FA)

荒井 啓介、中山 智貴、原 大輔、宮崎 碧海、石川 裕也、岡村 優希、小林 大吾、篠原 健、田中 香帆、冨澤 謙太、永野 裕介、福満 拓希、森山 諒一、山形 昇平、木村 航洋、五味 雄理、芝 貴之、副松 春佑、中野 広隆、中山 暉也、堀口 征利、松村 優佑、湯原 隆博

Presentation

プレゼンテーション

昨年度は「キレのある走り」というコンセプトを掲げ、新規開発項目としてハイカム化、オイルパンカット、機械式LSDの搭載、樹脂製サージタンクの搭載、ブルロッド化等多くの挑戦をしました。しかし破損の続出により車両の熟成が進まずに潜在的な能力を発揮することができなかつたため、今年度は信頼性の向上に注力して開発を行ないました。

シェイクダウン後、大きなトラブルを起こすことなく、大会まで順調に走行を重ね、新人ドライバーの練習時間を多く確保することができました。またエアロデバイスの開発の第一歩としてディフューザーを製作・搭載しました。来年度はフルエアロでの参戦を予定しています。

Participation report

参戦レポート

大会直前にエンジンの調子が悪くなり、不安を抱えたままの参戦となりました。そのため審査の傍らプラクティスエリアとピットを往復し、エンジンの調子を取り戻すべく奮闘しました。このようなトラブルを抱えた中、アクセルレーションとスキッドパッドは好成績を修めることができました。またチームのエンジン担当の努力の結果、エンデュランスでは応急処置ではありますがエンジンの良い方向にセットアップした状態で出走することができました。2名のドライバーともに順調に周回を重ね、タイムも夏のエコパ試走会以上の良いタイムを記録しました。チェッカーまであと2周のところまでガス欠状態に陥ってしまい、完走が危ぶまれる事態となりましたが、セカンドドライバー・チームのエースドライバーが慌てることなく冷静な判断で走行を続け、チェッカーを受けることができました。

静的審査では多くの課題が残りましたが、次年度に繋がるアドバイスを得ることができ、方針を固めることができました。特にコスト審査では近年の地道な努力が実を結び、高評価を頂きました。

無事に完走し、昨年のエンデュランスでのリタイヤの雪辱は果たせましたが、大会で突然生じたマシントラブルには「もしこれがなければ……」と悔やみきれません。しかし、上位入賞するためにはこのようなトラブルを解消することもチーム力として必要です。今年度の反省を生かし、来年に向けてチーム始動を続けて参ります。

Sponsors スポンサーリスト

イワモト、泰和、東京アールアンドデー、ジュニアモーターパーククイック羽生、スズキ、ソリッドワークス・ジャパン、日産自動車、日本軽金属、本田技研工業、日研製作所、丸山ラジエーター工作所、UDトラックス、平山自動車工業、深井製作所、ジョブテシヨ

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/33.html>